

虎頭の舞

東かがわ市白鳥虎頭舞保存会

[出演者]

三枝 歩夢 (和唐内)	内海 舞子 (太鼓)	黒田 伊織 (拍子木)	内海さくら (笛)	三好 幸信 (頭取)
田中 宏和 (獅子)	内海 貴志 (太鼓)	岡本 憲治 (御幣)	三枝 奨 (笛)	黒田登志博 (頭取)
丸山 義弘 (獅子)	岡田 崇志 (太鼓)	岡本 毅 (職)	田中 海斗 (笛)	野々上浩一 (頭取)
内海 知也 (獅子)	吉川 忠 (太鼓)	松浦 眞三 (職)	森 幸志郎 (笛)	
岡本 幸治 (獅子)	三枝 久男 (鉦)	宇山 輝 (笛)	六車 伸秋 (頭取)	

[行う時期・場所]

10月6～8日

白鳥神社 秋の例大祭
(香川県東かがわ市松原)

「虎頭の舞」は、香川県東かがわ市の白鳥神社の秋祭りに奉納される獅子舞の一種です。

白鳥神社は、寛文4年(1664)初代高松藩主松平頼重により再興され、翌寛文5年、京都より公卿のト部兼古(後の猪熊千倉)を迎えて神主としました。このとき、兼古は京都より「虎獅子の頭」を持ち込み、白鳥中組の若者たちに「虎頭の舞」として使わせたものであると文献には伝えられています。この頭は木製で修理を重ねながら使用していましたが、破損がひどく、ついには使用できなくなり破棄したとされています。のちに、張子でこれに似せた頭をつくり、現在まで代を重ね使用しています。

最初は、ただ虎の頭を振り回す程度の舞であったと云われていますが、元禄年間に至って近松門左衛門の劇作「国姓爺合戦」が歌舞伎に上演流行すると、その歌舞伎の演舞を取り入れ、現在の「虎頭の舞」が誕生したと伝えられています。

演舞内容としては、和唐内と虎との出会いから始まり、最後に和唐内が

虎を調伏するまでの格闘を舞に演じたものです。

息詰まる和唐内と虎との睨み合いが随所に盛り込まれ、また和唐内の動きも歌舞伎から採り入れた六方を踏むという歌舞伎調に仕立てた勇壮な舞です。

昭和44年、香川県の無形民俗文化財に指定され、平成18年には国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として選定されました。

例年9月半ばころから10月の白鳥神社秋季大祭に向けて毎晩練習を重ねています。

対外実践活動として、全国虎舞フェスティバル(岩手県)、全国青年大会(東京都)、第39回中国・四国ブロック民俗芸能大会(島根県)、第11回国民文化祭とやま'96(富山県)、第12回国民文化祭かがわ'97(香川県)、第17回国民文化祭とっとり2002(鳥取県)、第19回国民文化祭・ふくおか2004(福岡県)、第22回国民文化祭・とくしま2007(徳島県)、全国獅子舞フェスティバル・飛騨市(岐阜県)、香川県主催の郷土芸能大会に出演し、広くこの舞を知ってもらうために活動しています。

